

学籍番号

氏名

括弧 () に適当な文字、数字、用語等を入れなさい (各2点)。

骨組織に存在し、骨基質を作るのが 1. (骨芽) 細胞で、骨基質を破壊し血中Caを高めるのが 2. (破骨) 細胞である。

大動脈弓から順に腕頭動脈、3. (左総頸動脈) 4. (左鎖骨下動脈) がでる。

第三鋸嚢から形成される器官は 5. (上皮体) と 6. (卵巣) であり、そのうち6は前縦隔に存在する。

全胚性細胞

椎骨は主に椎体、椎弓、後方に飛び出た 7. (棘) 突起、上下の 8. (関節) 突起からなる。

胃の背側にある空間は 9. (網膜嚢) であり、その後壁には消化酵素やホルモンなどを分泌する 10. (膵臓) が存在する。

主に右冠状動脈から刺激伝導系 (結節) に分布する枝が出るが、そのうち後室間溝 (心臓後壁、左、右心室の境界をつくる溝) の近傍で出る枝は 11. (房室結節枝) である。

腰神経叢は 12. (大腰筋) に覆われており、その主な枝は大腿前面に分布する 13. (股神経) 、内転筋に分布する 14. (陰鎖神経) などである。

基底膜はタイプ 15. (IV) コラーゲン (ローマ数字) を含み、電子顕微鏡では三層の構造からなり、そのうち電子密度がもっとも高い構造 (濃く見える) を 16. (網状層) という。

脊髄神経は頸神経が 17. (8) 対、胸神経が 12 対、腰神経が、18. (5) 対である。

肝臓は 19. (8) 区域、左肺は 20. (4) 区域に分けられる。

左はS1-S2 同い。右はS1-S10まで。

膵臓には内分泌器官として、21. (ランゲルハンス) 氏島があり、主にインシュリンを分泌する 22. (β) 細胞とグルカゴンを分泌するα細胞からなる。

平滑筋の細胞膜近くにある小胞は横紋筋の 23. (終末小胞) に相当し 24. (Ca²⁺) イオンを含んでいる。

① 長幹骨の骨端軟骨は 25. (ガラス) 軟骨であり、タイプ 26. (II) コラーゲン (ローマ数字) が主体である。

✓ 肝臓で右後区域と右前区域を分けるのは 27. (右肝) 静脈である。
右左、中肝静脈、
上下は門脈、
中心下大静脈

② 腹膜鞘状突起は発生の過程で閉鎖し 28. (精巣) 鞘膜になる。

横紋筋で A 帯は 29. (アクチン) と 30. (ミオシン) の収縮蛋白からなる。前者は微絨毛の構成要素でもある。

大静脈の 31. (外) 膜はよく発達し、しばしば 32. (膠原) が含まれ、縦走する。

舌の後ろ 1/3 を 33. (舌根) とよび、知覚、味覚いずれにも関係する神経が 34. (舌咽) (IX) である。

③ 結合組織 (膠原線維、弾性線維、細胞外基質) を作り出す細胞は 35. (繊維芽細胞) であり、蛋白をつくる 36. (粗面) 小胞体が多く含まれる。clara 細胞、ミトコンドリア

Gerota's fascia が包むものに、尿を生成する 37. (腎臓)、ステロイドホルモンを分泌する 38. (副腎) がある。
腎、副腎、ステロイド、
腎臓、アルドステロン、カルドステロン

内胸動脈は 39. (鎖骨下) 動脈より分岐し、40. (肋間) 動脈の近傍で胸郭の背側に接して下行し、横隔膜の近くで筋横隔動脈および 41. (上腹) 動脈に枝分かれする。

間膜を持つ結腸は 42. (横行結腸) と 43. (S 状結腸) であり、前者の右 2/3 は迷走神経支配である。

脊髄を硬膜に固定する構造は 44. (歯状) 靱帯である。

ダグラス窩と直接するのは 45. (後腹内蓋) 円蓋である。

左気管支を乗り越えて背側に向かうのは上から 46. (肺動脈)、47. 左 (肺) 動脈である。

心臓において血管の内膜に相当する部位を 48. (心) 内膜と呼び、表層は単層で扁平な 49. (内皮) 細胞からなる。

④ 第 4 鰓弓から形成される軟骨は主に 50. (甲状) 軟骨と輪状軟骨である。